5．調査の方法

調査票の配布・回収は調査員が行い，調査票の記入は調査対象者の自計方式による．

6．結果の集計および公表

国立社会保障・人口問題研究所がこれを行う

（小山泰代記）

特別講演会（8月11日，Prof. Alaka Basu）

2003年8月11日（木）午後2時～4時に当研究所で，米国コーネル大学社会学科のアラカ・バス（Alaka Basu）準教授が「超近代的避妊―インドにおける社会階層と家族計画」("Ultra-Modern Contraception: Social Class and Family Planning in India") と題された特別講演を行った．結局，超近代的避妊法とは超近代的な女性が使う伝統的と言われる避妊法のことであった．

周知のとおり，バス準教授はリプロダクティブヘルス，ジェンダー，南アジアを専門とする人口学者として著名で，国際人口学会（IUSSP）の人口人類学研究委員会の委員長，国際人口学会理事を務めるなど，国際的な研究活動も活発にしている．また，著書としては *Culture, the Status of Women and Demographic Behavior: Illustrated with the Case of India* (Oxford University Press, 1992)，共編著としては *The Methods and Uses of Anthropological Demography* (Oxford University Press, 1998) がある．なお，今回の特別講演はご家族の関係で来日された機会をとらえ，お盆休みの時期に行われたが，著名な方が関心を集めているテーマで講演されたためか比較的多くの聴衆が来られ，活発な議論が行われた．

（小島　宏記）

日本統計学会第71回大会（2003年度統計関連学会連合大会）

昨年度から応用統計学会，日本計量生物学会の大会と共に統計関連学会連合大会に統合された，日本統計学会（新会長：藤越康祝・広島大学教授）の第71回大会（連絡委員会委員長：広津千尋・明星大学教授，実行委員会委員長：和合　肇・名古屋大学教授，企画委員会委員長：岩崎　学・成蹊大学教授）が2003年9月2日（火）～5日（金）の4日間にわたって名古屋市の名城大学天白キャンパスで開かれた．9月2日（火）午後には2つのチュートリアル・セミナーが同時並行で開かれたが，そのうちのテーマ1は「官庁統計の理論と実際」で，以下のとおり，人口研究とも関わりが深いものであった．総務省報告では2000年国勢調査の事後調査結果が報告され，精度の検討がなされ，興味深かった．

テーマ1：官庁統計の理論と実際
オーガナイザー：美添泰人（青山学院大学）

官庁統計の位置づけと課題	美添泰人（青山学院大学）
官庁統計に関する理論的話題	加納　悟（一橋大学）
国勢調査及び家計調査の精度と利用上の留意点	川崎　茂・高見　朗・會田雅人（総務省）
企業活動に関する統計の課題と新たな集計事例	田辺孝二（経済産業省）

翌3日（水）から5日（金）の午後にかけて50近くのセッションで研究報告会が開催されて約200件以上の報告がなされるとともに，5つのコンペティションのセッションで大学院生等の若手研究者による報告が行われた．学問分野の性格上，人口に関連する報告は少なくなかったが，直接関連するものは以下の「統計調査」セッションで行われた．

「統計調査」　座長：美添泰人（青山学院大学）

1　企業・事業所を調査客体とする統計調査結果の精度について　山田　茂（国士舘大学）
2　国民生活基礎調査標本誤差推定へのリサンプリング法の応用　石井　太（厚生労働省）
鈴木健二（厚生労働省）
西郷　浩（早稲田大学）
3　有限母集団における累積分布関数の推定について　樋田　勉（群馬大学）
4　国勢調査における外国人人口の「調査漏れ」　小島　宏（国立社会保障・人口問題研究所）
5　労働力調査の都道府県別結果の標本誤差について　石井　達男（総務省統計研修所）

なお，2004年度連合大会は9月3（金）～6日（月）に花巻市の富士大学で開催される予定である．

（小島　宏記）

日本建築学会2003年度大会（東海）

日本建築学会2003年度大会（東海）は，2003年9月5日（金）～7日（日）の3日間にわたり，愛知県春日井市の中部大学を主会場として開催された．大会は「持続と循環：地球，地域，建築そして生命」をテーマとし，いずれも多数の学術講演や研究協議会，パネルディスカッション等が開催され，活発な議論が行われた．また，主会場のほか名古屋市内などでもシンポジウム等の各種記念行事が催され，市民を含めた多くの参加者を集めていた．

「人口」や「世帯」を直接の分析対象とする報告は多くはないが，都市計画や建築経済・住宅問題部門を中心に関連する興味深い報告があった．近年，高齢者と家族とのサポート関係と居住関係との関連を扱う報告が増えているが，建築経済・住宅問題部門では「家族と高齢者」というセッションが設けられ，高齢者の世帯変動，居住移動，ネットワーク居住などについて，親と子の居住関係を中心とした分析の報告が行われた．筆者はこのセッションにおいて，高齢期の世帯の変動に関する報告を行った．ライフスタイルの変化・多様化や近く到来する人口減少時代を睨んで，都市・建築計画分野では，都心や地方都市の再生はもとより，地域施設や住宅，住まい方の再編も大きなテーマとなっており，さまざまな取り組みが行われている．限られた時間ではあったが，有益な知見を得る機会となった．

（小山泰代記）

第13回日本家族社会学会大会

日本家族社会学会（会長：石原邦雄・東京都立教授）の第13回大会（大会実行委員長：畠中宗一・大阪市立大学教授）が2003年9月6日（土）～7日（日）の2日間にわたって大阪市の大阪市立大学で開かれた．初日の午前から2日目の午前にかけて2コマにおける4つのテーマセッションを含む12のセッションで40以上の研究報告がなされ，2日目の午後には「『現代社会における家族ならびに結